

1 「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の進捗状況について

＜計画値の達成状況＞

計画では、平成43年度を目標年次として達成すべき5つの具体的な数値目標を掲げています。

平成29年度は、5つの数値目標のうち、総排出量・焼却処理量・最終処分量は計画値を達成しましたが、再生利用率・温室効果ガス排出量は計画値に達しませんでした。

表1：計画値と実績値の比較

	平成29年度			平成43年度 (目標年度)
	計画値	実績値	達成状況	
総排出量 ¹ (t)	368,269	351,103	○	354,000
焼却処理量 (t)	247,820	243,725	○	235,000
再生利用率 ² (%)	33.8	32.6	×	38.0
最終処分量 ³ (t)	22,867	19,739	○	13,000
温室効果ガス排出量 (t)	83,525	90,138	×	78,000

¹ 総排出量：以下の①、②、③の合計

①家庭系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、有害ごみ、資源物（びん、缶、ペットボトル、古紙、布類、生ごみ、剪定枝等）、粗大ごみ）

②事業系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、事業系資源物（びん、缶、金属等、古紙・布類、厨芥類など）

③集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収

² 再生利用率：ごみの総排出量に対する再生利用量の割合（再生利用率＝再生利用量／総排出量×100）

※再生利用量：家庭系資源物、集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収、事業系資源物、不燃ごみ・粗大ごみの破碎後資源化量、有害ごみ・焼却灰等再資源化量の合計

³ 最終処分量：埋立焼却灰量と直接埋立量（破碎残さ量を含む）の合計

ア 総排出量

平成29年度の総排出量は 351,103t となり、前年度と比べて 7,734t (2.2%) 減少し、計画目標値を達成しました。

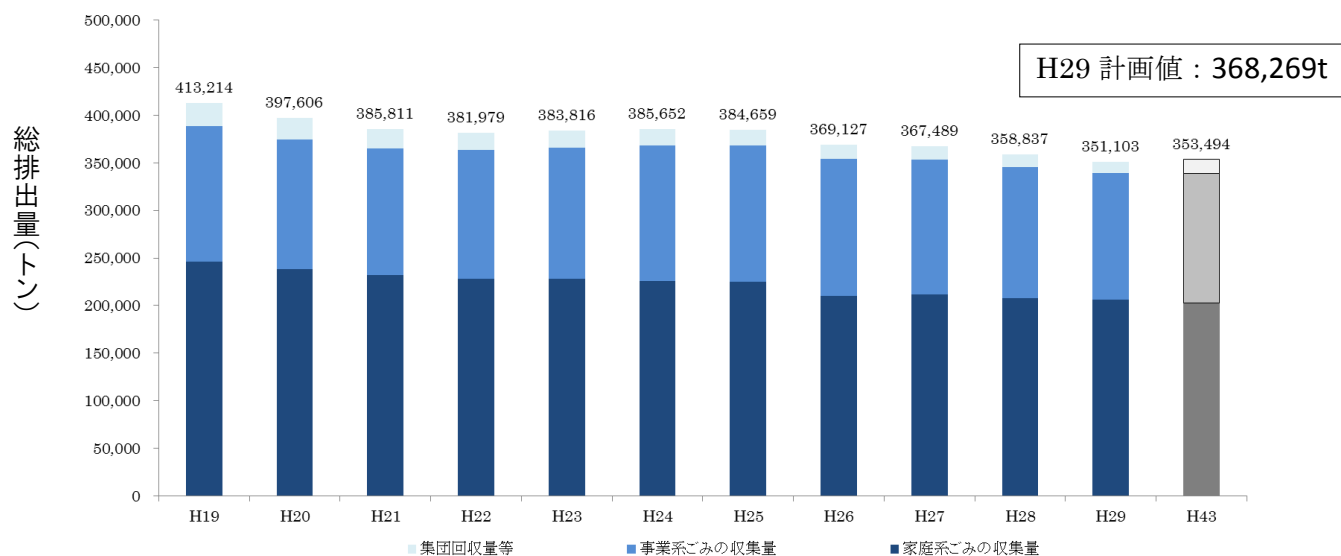


図1 ごみの総排出量の推移

【分析結果】

① 家庭系ごみ

計画：180,634 トン→実績：174,678 トン (▲5,956 トン)

② 事業系ごみ

計画：75,708 トン→実績：74,473 トン (▲1,235 トン)

③ 家庭系資源物

計画：46,034 トン→実績：43,097 トン (▲2,937 トン)

④ 事業系資源物

計画：65,893 トン→実績：58,855 トン (▲7,038 トン)

【主な要因】

- ・ 家庭系可燃ごみ収集量の減少 (▲6,336 トン)
- ・ 事業系可燃ごみ収集量の減少 (▲1,241 トン)
- ・ 家庭系古紙・布類の集団回収量の減少 (▲2,383 トン)
- ・ 事業系古紙の減少 (前年度比▲1,689 トン) など

イ 焼却処理量

平成29年度の焼却処理量は243,725tとなり、前年度と比べて2,431t（1.0%）減少し、計画目標値を達成しました。

このうち、家庭から排出される焼却ごみの量は169,275t（前年度比2,484t（1.4%）減）に、事業所から排出される焼却ごみの量は74,450t（前年度比53t（0.1%）増）となりました。

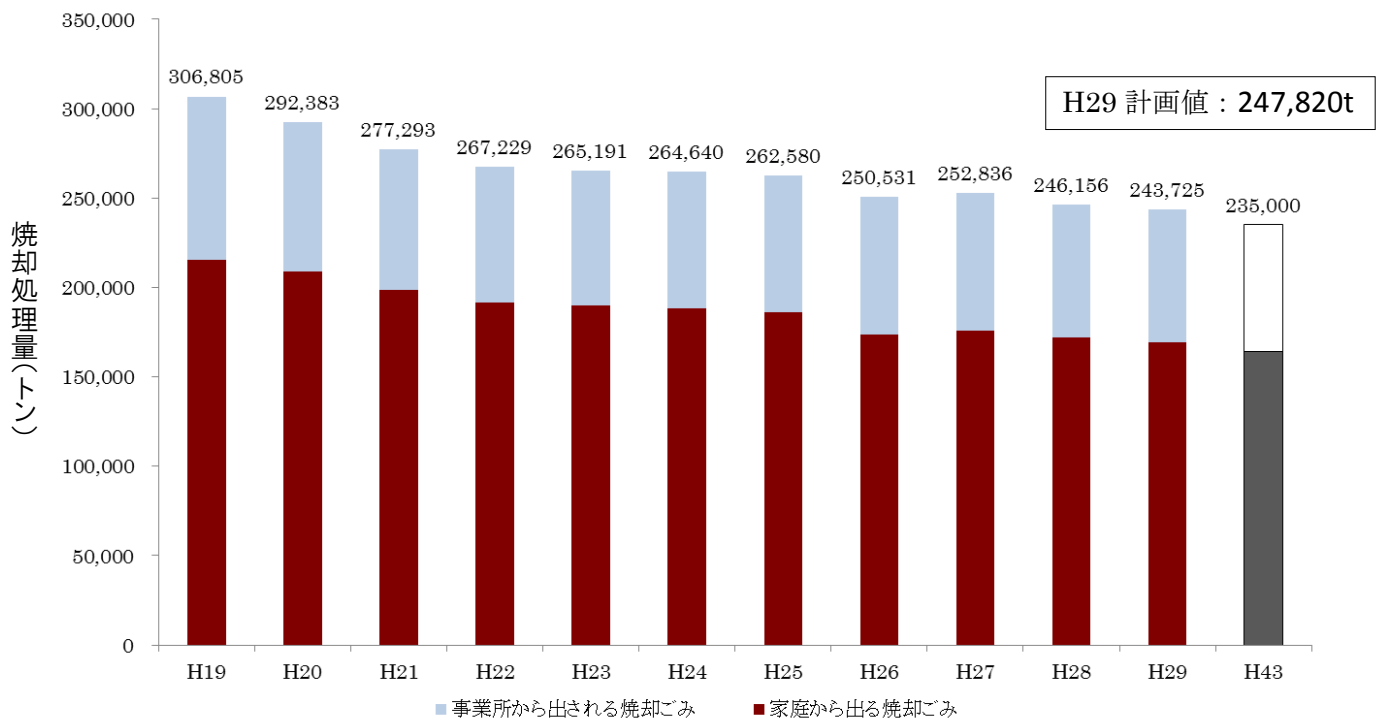


図2 焼却ごみの量の推移

【分析結果】

① 家庭から排出される焼却ごみ量

計画：172,129トン→実績：169,275トン（▲2,854トン）

② 事業所から排出される焼却ごみ量

計画：75,691トン→実績：74,450トン（▲1,241トン）

【主な要因】

- ・剪定枝等再資源化事業による削減効果（▲974トン）

ウ 再生利用率

平成29年度の資源物の収集量は90,064tでした。

このうち、家庭から出された資源物（集団回収等を除く）は31,209tとなり、前年度と比べて331t（1.1%）増加しました。

また、事業所から出された資源物は58,855tとなり、前年度と比べて4,276t(6.8%)減少しました。

集団回収や焼却灰の再資源化等を含めた最終的な再生利用量は114,414tで、再生利用率は32.6%となり、前年度と比べて0.7%減少し、計画値である33.8%に達しませんでした。

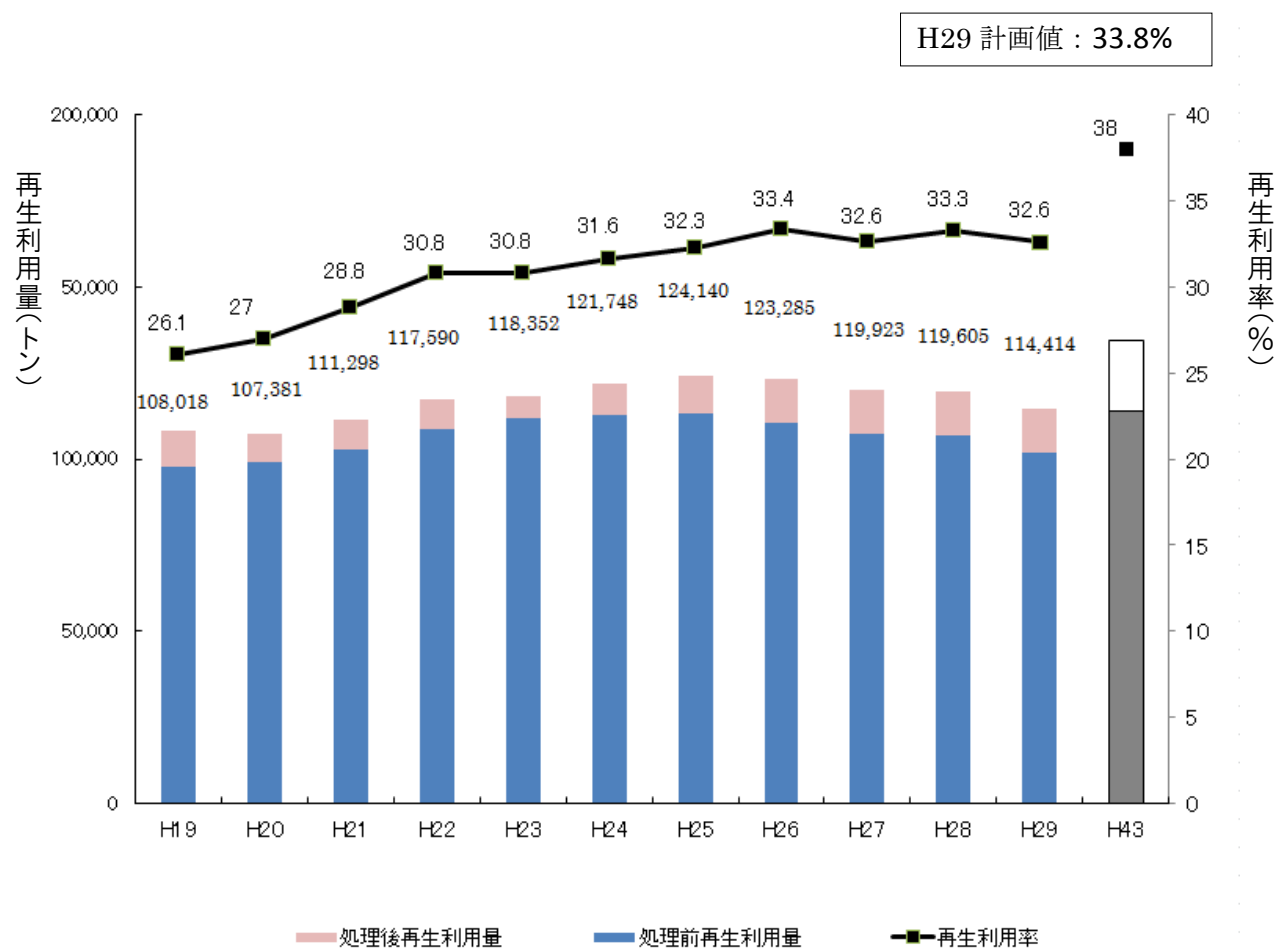


図3 再生利用量、再生利用率の推移

【分析結果】

・事業系資源物再資源化量

計画：65,893 トン→実績：58,855 トン（▲7,038 トン）

【主な要因】

・古紙の減少（前年度比▲1,689 トン）など

エ 最終処分量

平成29年度の処分量は19,739tとなり、前年度と比べて823t（4.0%）減少し、計画目標値を達成しました。

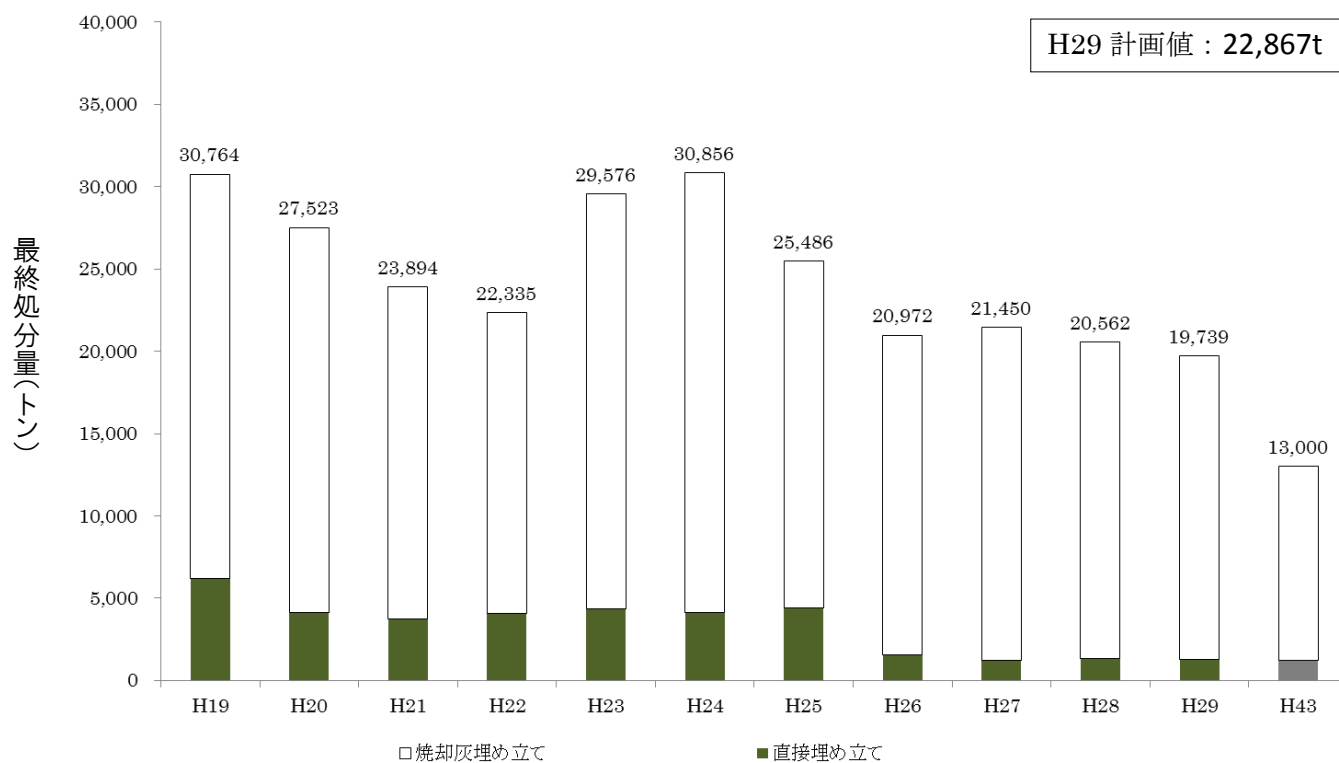


図4 最終処分量の推移

【分析結果】

① 焼却灰発生率

計画：10.8%→実績（北清掃工場）：7.7%

② 焼却灰埋立量

計画：21,615トン→実績：18,441トン（▲3,174トン）

【主な要因】

- ・ 焼却灰発生率が推計値よりも低い
- ・ 焼却処理量の減少により焼却灰量が減少

オ 温室効果ガス排出量

平成29年度の温室効果ガス排出量は、90,138t となり、前年度と比べて 7,850 t (8.0%) 減少しましたが、計画値の 83,525 t に達しませんでした。

表2：温室効果ガス排出量の内訳

(単位：トン)

	清掃工場稼働 に伴う発生量 (A)	廃棄物の焼却 に伴う発生量 (B)	売電、熱供給に 伴う間接削減量 (C)	合計 (A+B-C)
計画	※	※	※	83,525
実績	15,289	107,398	32,549	90,138
実績－計画				6,613

※計画値は、全体の排出量のみ計上しています。

【分析結果】

- ・焼却ごみの組成の変化

【主な要因】

- ・計画策定時に比べプラスチック・ゴム類の組成割合が上昇
(H27：28.9%→H29：29.3% (+0.4%))